

リトルワールドキャンプ 15 活動報告書



平成 30 年 8 月
静岡県立大学公認クラブ
リトルワールドキャンプ実行委員会

I. 私たちのミッション

静岡県には、様々な国の文化をもった方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くはないように感じます。そこで、キャンプを通し、子どもたちが異文化に興味を持ち、理解する場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。「多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子どもたちが身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供する」というミッション（活動指針）のもと、静岡県内の小学4,5,6年生を対象に毎年静岡県内の様々な場所でキャンプを行っています。

II. 活動内容

平成30年8月12日から14日に桃沢野外活動センターにて、2泊3日でキャンプを行いました。参加者は子どもが35名、（日本の子ども20名 浜松や富士のブラジル人学校などから外国と繋がりのある子ども15名）大学生スタッフ31名、高校生ボランティアスタッフ4名、通訳2名、顧問1名、合計で73名でした。今年度は昨年度に比べ、日本語があまりわからない外国と繋がりのある子どもの参加が多かったため、昨年度はなかった高校生ボランティアスタッフを募集しました。過去のキャンプに参加経験のある高校生を中心とした高校生ボランティアスタッフは、通訳の補助の役割をつとめてくれました。

1日目にははじめましての会、運動会、野外炊飯、2日目にクラフト、お楽しみ会、キャンプファイヤー、3日目にはウォークラリーとお別れの会を行いました。以下に、各プログラムの詳細を紹介いたします。

<1日目>

バスで桃沢野外活動センターに到着した後、最初にははじめましての会を行いました。はじめましての会では、これから3日間のキャンプを通じて行動を共にする生活班ごとに自己紹介をし、簡単な遊びを行いました。生活班ごとにリーダーを決め、班の目印となるボードや、キャンプ参加者全員で思い思いの色の手形を大きな布につけて大漁旗を作りました。初対面で緊張や言葉の壁もありましたが、過去にこのキャンプに参加経験のある子どもたちが積極的に話しかけて、コミュニケーションをとっていました。

昼食後は体育館で運動会を行いました。運動会は赤、青、黄の3チーム対抗で玉入れ、綱引き、ドッジボール、ボールリレーの競技がありました。チームで力を合わせ、子どもたちはどの種目にも楽しく全力で参加していました。

夕食は野外炊飯で作った中国風のミートパイ、ロウビンとスコットランドの焼き菓子、スコーンを食べました。薪で火をおこし調理したため、火加減の調節が難しく、どの班も試行錯誤を繰り返して作っていました。調理の工程を分担し、協力することで、子どもたち同士の距離が縮んでいったように見えました。はじめましての会では大人しく、しゃべらなかつた子どもも元気にしゃべるようになっていました。



▲玉入れ（運動会）

<2日目>

2日目の午前中はクラフトを行い、小枝の迷路と牛乳パックのスーパーカーを作りました。迷路作りでは班で協力して一つの迷路を製作し、出来上がった迷路にビー玉を転がして遊びました。自分の班で製作した迷路で遊ぶだけでなく、出来上がった迷路を使って、他の班の子と遊ぶ姿も見られました。スーパーカーは個人製作で行いました。一人一人車の形や色、デザインが異なり、それぞれ個性のあるスーパーカーが出来上がりました。完成後には子ども同士と一緒に走らせて楽しむ姿が見られ、子どもたちが1日目よりも積極的に交流するようになったように思えました。

昼食後はお楽しみ会を行い、「木の中のリス」や「ひっくり返しゲーム」などのゲームに加え、スイカ割りを行いました。「木の中のリス」は言葉に従ってグループを作るゲームで、ポルトガル語の単語も取り入れながらゲームを楽しみました。「ひっくり返しゲーム」はチーム対抗で赤い面と白い面のある丸く切り取ったダンボールをひっくり返して自分のチームの色の方が多く表を向いていたら勝ちというゲームでとても盛り上がりました。スイカ割りでは班の代表者が目隠しをし、他の子どもたちは方向を示す簡単な英単語を使って、代表者の子をスイカの前へと導きました。棒をスイカに当てることができた子どもはとても嬉しそうな様子で、他の応援していた子どもたちも拍手と暖かい言葉で讃えました。

夜に行ったキャンプファイヤーでは、まず「じゃんけん列車」で遊びました。音楽にあわせて歩き回り、じゃんけんをして負けた子が勝った子の後ろにつくことで列を伸ばし、それを繰り返して最終的に全員で一つの大きな列車になりました。列車で先頭になった子どもは代表として、キャンプファイヤーの点火に参加しました。「ジンギスカン」の踊りを練習した後、焚き火を全員で輪を作って囲み、音楽に合わせて踊りました。言語の異なる子ども同士でも、お互いに踊りを教え合いながら笑顔で楽しむ様子が見られました。

2日目は班でチームを組む遊びに加え、全体的に多くの子とも同士が交流できるプログラムも多かったため、たくさんの遊びを通して初日より打ち解け仲良くなることができました。



▲小枝の迷路作り（クラフト）



▲キャンプファイヤー

<3日目>

起床後に3日間使った部屋を協力して掃除し、午前中にウォークラリーを行いました。

ウォークラリーでは、怪獣から昼食を守るアイテムを得るための暗号を探す旅に出る、というストーリーに沿って、生活班とは別に新しくグループを作り、桃沢の森を散策しながら協力してミッションに取り組みました。ミッションは6つあり、グループの中で自分の役を特徴づける道具を使って、お互いに相談しながらミッションをクリアし、暗号のヒントを集めました。元気よく自然の中を歩き、積極的にミッション解決のための意見を交換する様子が見られました。



▲ 謎解き（ウォークラリー）

午後には、3日間を振り返るお別れの会を行いました。まず、生活班ごとに3日間の感想を発表し合い、思い出を共有した後、Tシャツに寄せ書きをし合いました。

感想発表では、楽しかったプログラムの話や、言語が異なる友達とも仲良くなることができた、キャンプに参加してよかった、来年も参加したいという声を聞くことができました。子どもたちが笑顔で感想発表する姿から、子どもたち全員が心からキャンプを楽しめたのだと感じられました。

寄せ書きでは、キャンプで仲良くなった友達やスタッフと、絵やメッセージを交換しました。寄せ書きを集めて背中がスタンプラリーのようになり、Tシャツに模様を描いて面白味を出したりと、思い出の残し方は多様でした。日本の子どもたちと外国に繋がりのある子どもたちが楽しそうに寄せ書きをし合っている様子を見ることができました。子どもたちのTシャツに背中いっぱい描かれた絵やメッセージから、3日間が子どもたちにとって有意義な時間になったのではないかと感じました。

III. 事前準備

事前準備ではキャンプ当日に起こりうる事態を予測し、準備、対策を行いました。

6月30日に、駿河消防署の方々に静岡県立大学までお越しいただき、救命講習会を開きました。これには、企画スタッフとボランティアスタッフが参加しました。AEDの使い方や胸骨圧迫、人工呼吸などの一時救命処置の方法を全員が学びました。さらに、災害時やけがの対応のための緊急対策マニュアルを作成しました。

また7月22日には、キャンプ参加者の保護者説明会を静岡ホテル時之栖で行い、顔が見えるキャンプを目指すとともに、保護者の方が抱えている不安や心配な点を少しでも解消できるよう努めました。

キャンプ直前の定例ミーティングでは、キャンプに参加するスタッフ全員が集まり、団結式を行いました。この式でスタッフ全員の意識を高めることができました。



▲ 救命講習会の様子

《お問い合わせ・ご質問》

静岡県立大学公認クラブ リトルワールドキャンプ実行委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学 リトルワールドキャンプ

Email little_world_camp@yahoo.co.jp

HP <http://littleworldcamp.jimdo.com/>